

院外処方箋に表記する臨床検査値一覧

I. 生化学的検査

略語	名称	説明	基準範囲	単位
CPK	クレアチンキナーゼ	主に筋肉に多く含まれているもので、筋に異常があると高値になります。運動など筋肉に負荷を与えることで値が高値になることがあります。疾患としては心筋梗塞や脳梗塞で高値になります。	男性：61～265 女性：49～189	IU/L IU/L
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	ほとんどすべての臓器に存在し、なかでも心臓や肝臓、腎臓、骨格筋に高濃度に含まれています。主に肝疾患と筋疾患で高値になります。	13～37	IU/L
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ	ASTに同じくほとんどすべての臓器に存在しますが、特に肝臓に多く存在しています。そのため高値化した場合は肝疾患があると考えられています。	8～45	IU/L
ALB	血清アルブミン	TP(総蛋白)の約50～70%を占め、肝臓で合成される蛋白質の一種であり栄養評価の指標となります。蛋白の漏出、低栄養状態、肝臓での合成低下で低値となります。低値になると浮腫(むくみ)になることもあります。	3.8～5.2	g/dL
T-Bil	総ビリルビン	赤血球が壊れた後に分解されて生じる物質です。大部分は胆道系に排泄され一部は血液中に漏れ出し尿中に排泄されます。肝胆道系疾患で胆道系に排泄され辛くなり血液中に漏れ出す量が増えるため高値になります。	0.3～1.3	mg/dL
BUN	血中尿素窒素	蛋白質が分解された後の老廃物です。本来はそのほとんどが尿として排泄されますが、腎疾患などで排泄機能が悪くなると血中に停滞し高値になります。	7.8～18.9	mg/dL
CREA	クレアチニン	筋や神経細胞の作用によって生成される老廃物です。BUNに同じく本来はそのほとんどが尿として排泄されますが、腎疾患などで排泄機能が悪くなると血中に停滞し高値になります。尿中排泄量は筋肉量に比例します。	男性:0.64～1.11 女性:0.45～0.82	mg/dL mg/dL
K	カリウム	筋肉や神経の働きに関与しており、特に心筋の活動に重要な作用を持っている。腎機能障害による排泄の低下や溶血性疾患や火傷などの細胞破壊の亢進で高値になり、ホルモン異常や摂取不足で低値になります。	3.6～5.1	mEq/L
CRP	C反応性蛋白	体内に含まれる蛋白質の一種です。体内に急性の炎症や感染、組織の損傷がある時に高くなります。	0.00～0.30	mg/dL
HbA1c	ヘモグロビンエイワンシー	赤血球の成分であるヘモグロビンとグルコースが結合したものです。1～2ヶ月前の血糖値を反映します。	4.6～6.2	%

II. 血液学的検査

略語	名称	説明	基準値	単位
WBC	白血球数	体内に侵入した細菌やウイルスなどの異物の排除をします。好中球・好酸球・好塩基球・単球・リンパ球の5種類があります。	40～90	100/ $\mu$ l
Hb	血色素量 (ヘモグロビン)	赤血球が赤いのはこの色素の色で、この色素が血液100mlに何グラム含まれているかで貧血があるかわかります。	男性：14～18 女性：11～16	g/dl
PLT	血小板数	血管が損傷した時にその傷口をふさぎ、出血を止める作用があります。	15～40	万/ $\mu$ l
Neutr	好中球	体内に侵入してきた細菌や真菌の貪食殺菌を行う事で感染から守ります。		%
PT-INR	プロトロンビン時間 国際標準比	血液凝固因子に関係したたんぱく質の測定値で、血液の固まりやすさの指標です。ワーファリン治療時の薬の量の調節に必要な検査です。	0.9～1.1	

2020年6月15日改定